

生活

旬のさかな 鯿はせ
 都市部でも見られるありふれた存在なのに市場に出回る量は少ない。なぜなら自分で釣って味わう魚だから。釣果は天ぷらや空揚げ、刺し身に。

くらしのこよみ

うつくしいくらしかた研究所

◎ 東京新聞

● がんの治療

Sさんが直腸がんの手術を受けたのは、十二年前のことです。診断が出たときには、既に肝臓と肺に転移している状態でした。そのため、直腸がんの手術後に肝臓に対する抗がん剤治療(化学療法)



Dr.松井英男の

在宅医療のカルテ

を始めることになりました。抗がん剤の投与によって転移部分を小さく、手術で取り除くことが目的で、一連の治療は成功。次に肺に対する化学療法を開始しました。肺の病変を胸腔鏡手術で切除し、体内の遠い場所への転移がある「ステージⅣ」だった直腸がんの手術から五年後、Sさんはいったんがんを克服できたのです。

Sさんは、その後骨盤へのがんの再発などのため、亡くなるまで十二年間で計十種類の抗がん剤治療と、放射線治療を受けました。

化学療法と手術で

最後は肺への転移がどうしてもコントロールできず、抗がん剤を中止して自宅での緩和ケアとなりました。長い闘病生活でしたが、最

初のがんの診断時にステージⅣだったことを考えると、手術や化学療法を行わなければ、Sさんがその後十二年間生存することは難し



「足の具合はどうですか」。患者に語りかける

かったでしょう。その時点で、適切な手術と抗がん剤治療を選択した結果だと思えます。

がんには食事療法、免疫療法などいわゆる代替療法と呼ばれる治療法もあります。これらの治療の多くは科学的根拠に乏しく、治療に時間とおカネを費やした結果、取り返しがつかなくなる例も。

隣臓がんのため五十六歳で世界した米アップル社の創業者スティーブ・ジョブズ氏も、早期に手術していれば治癒できた病変が、代替療法を行っていた期間に悪化してしまったといえます。最終的には手術を選択しましたが、「定説にとらわれてはいけない」との信念が、病気の進行という点では悪い結果を生んでしまったのです。

(川崎高津診療所院長)

|| 次回は十五日掲載